

都市構造可視化ツールの活用

～周りのまちと比較してみたら見えたこと～

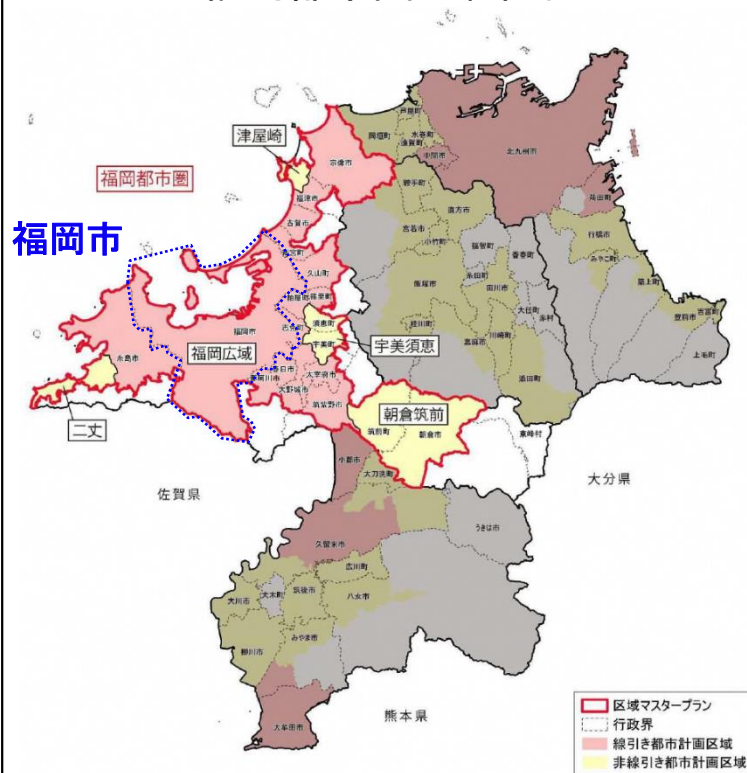


所属内でのプレゼン風景

福岡市住宅都市局都市計画課

1.福岡市の概要

福岡都市圏の範囲図



福岡県都市計画区域マスタープラン（R3.4）より引用

福岡市の土地利用状況



福岡市都市計画マスタープラン（H26.5）より引用

都市計画区域 : 34,082㎡
市街化区域 : 16,372㎡
市街化調整区域 : 17,710㎡

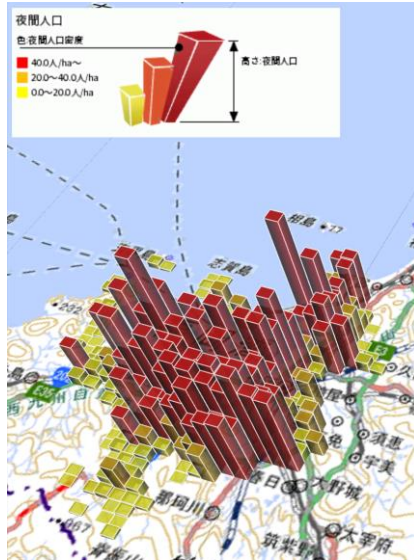
離島（小呂島、玄界島）を除く
市域全体が線引き都市計画区域

人口：約163万人 主な産業：第3次産業（約9割）

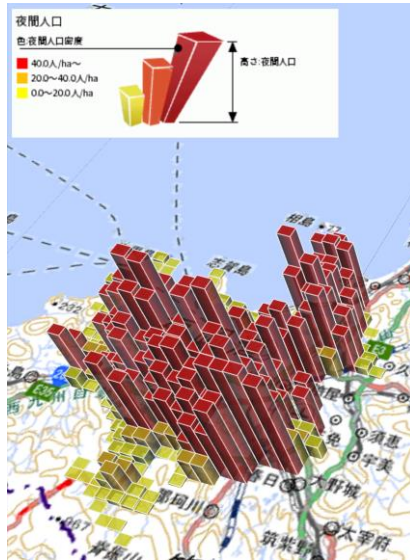
商業（卸売業・小売業）が盛んで、年間商品販売額は大都市の中で第4位。
福岡空港や博多港が都心部から近く、観光業も盛んで、来日観光客も年々増加中。
（コロナ前までは）
都心部や各拠点間を、放射環状型の道路や公共交通機関でネットワークすることで、コンパクトな都市の形成に努めている。

2.福岡市の人口推移

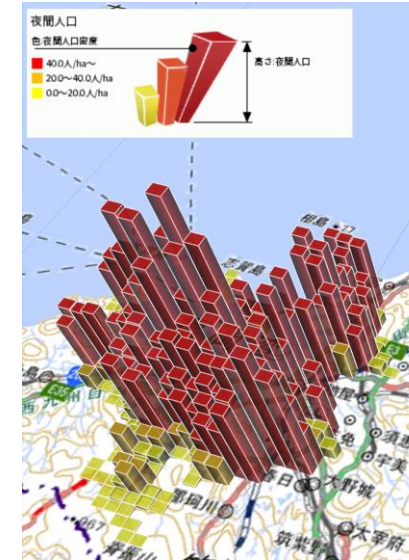
1980 (S55)



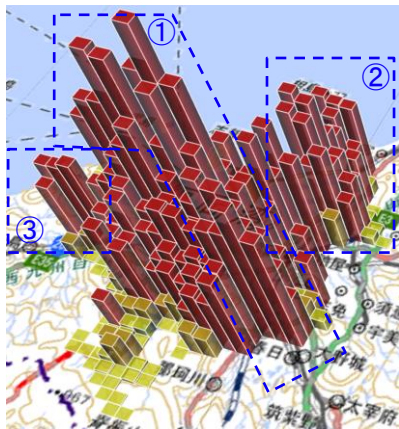
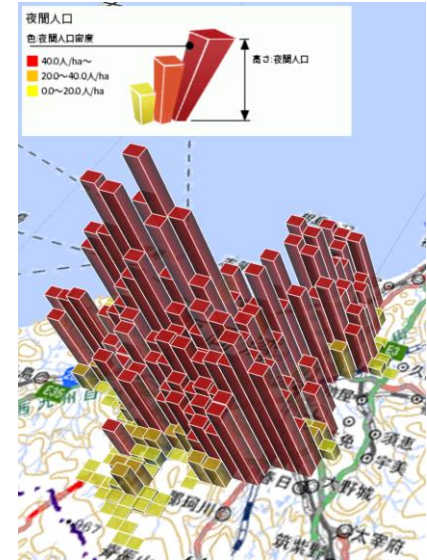
2000 (H12)



2015 (H27)



2030 (R12)



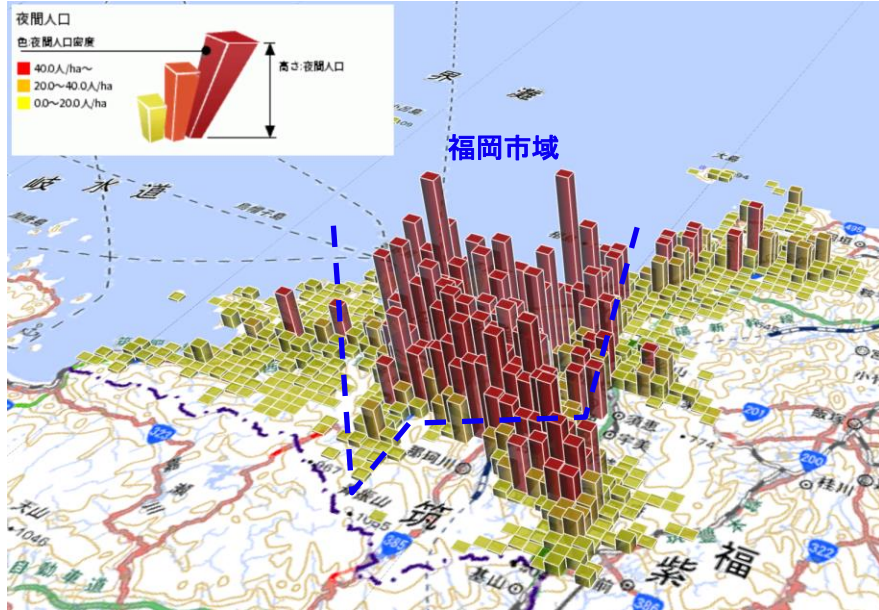
○都市構造可視化計画のデータを活用して、市内の夜間人口分布の推移を確認。

- ・市全域ほぼすべてのエリアで、増加していることがわかる。（人口密度が増加している。）
- ・鉄道沿線部の中でも、①特に市営地下鉄天神～姪浜間、西鉄天神大牟田線沿線の伸びが大きい。
- ・市東部地域では、②もともと人口の少なかった地域の伸びが大きいことがわかる。
- ・市西部地域では、③移転した九州大学の周囲が特に顕著に増加していることが確認できる。

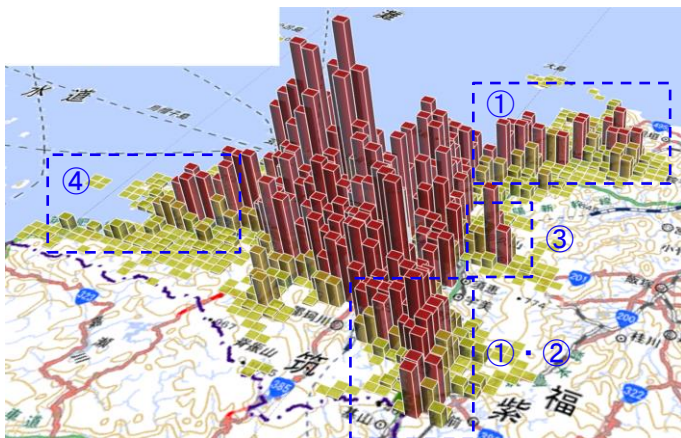
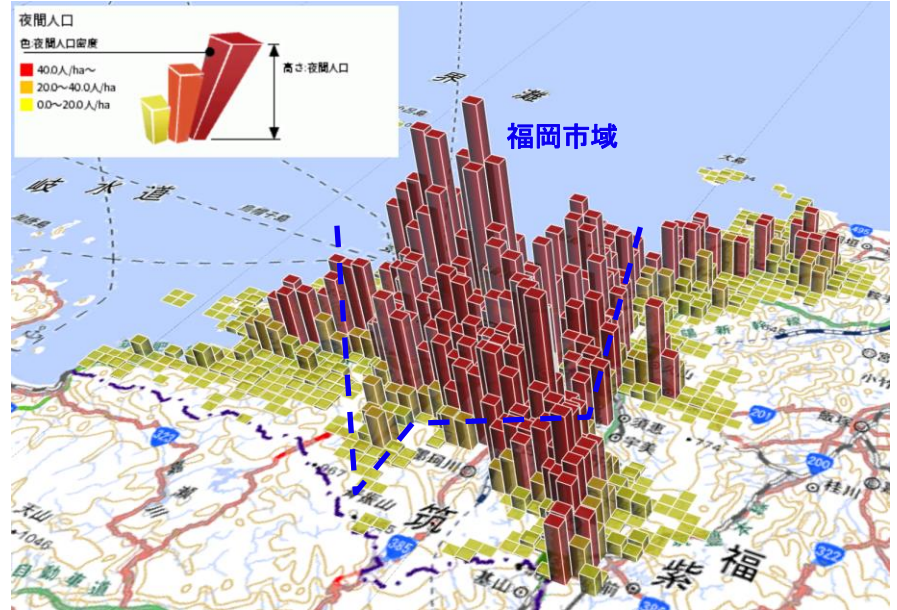
⇒福岡市は全体的に増えていることは分かったが、周辺の市町村はどうだろう。

3.都市計画区域全体の人口推移①

1980 (S55)



2015 (H27)



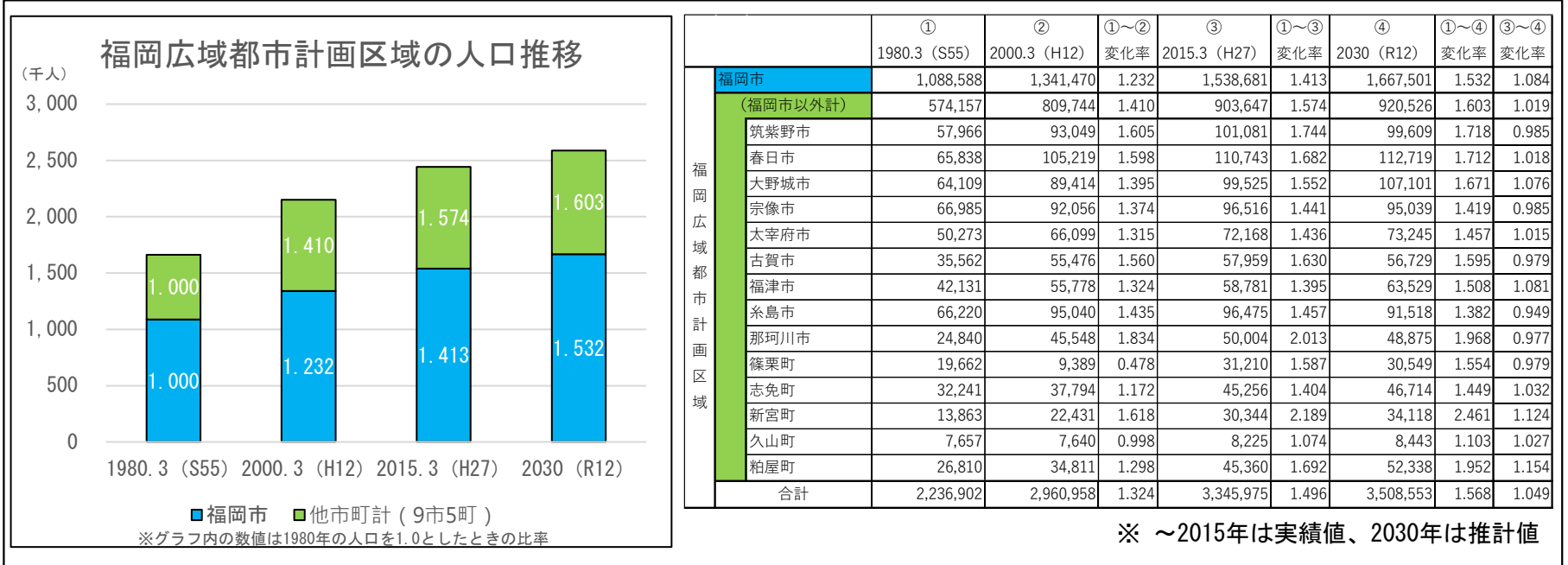
○次に、福岡広域都市計画区域全体での人口推移の変化を確認。

- ・福岡市だけでなく都市計画区域全体で、増加している状況がわかる。
- ・特に鉄道沿線の伸びが大きく、①JR鹿児島本線、②西鉄天神大牟田線、③JR篠栗線、④JR筑肥線沿線は大きく増加している。

⇒全体的に増えているが、数字で見るとどうだろう。

※1. 福岡広域都市計画区域：福岡県区域マスによる。福岡市を含む10市5町で形成。
※2. 那珂川市のデータについてはDLがうまくいかず表示できていません。

3.都市計画区域全体の人口推移②



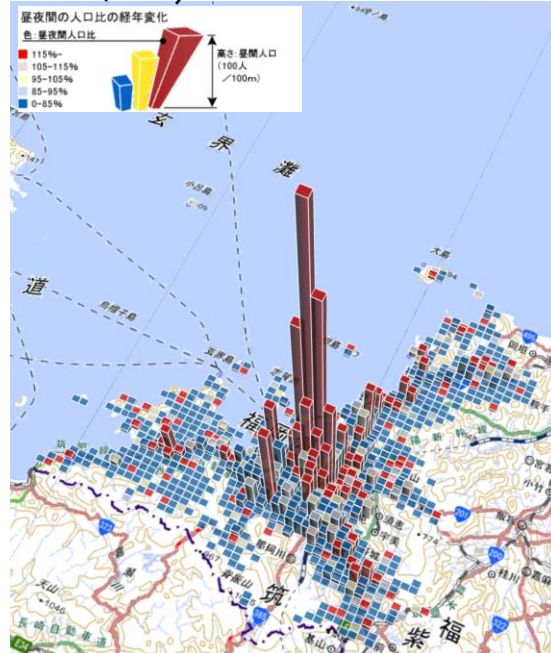
○次に、e-Statを活用し、福岡広域都市計画区域に含まれる10市5町の人口推移及び推計値のデータを集計しグラフ化。

- ・福岡市は現在も人口が増加しているが、他市町を合計した際の増加率計は本市を上回っており、1980年との比較においては15市町中12番目(2000年、2015年共)となっており、低い数値となっている。
- ・2030年の将来人口推計でも15市町中8番目となっており、平均を下回っている。
- ・2015年と2030年の比較では15市町中3番目となっており、今後もしかろうじて増加する予測となっている。

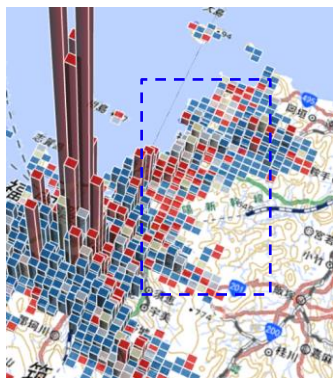
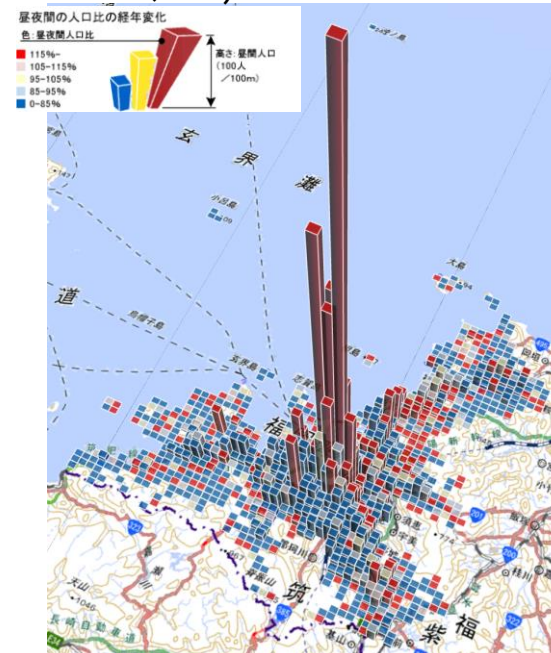
⇒夜間人口では他市町に後れを取っているが、昼間人口ではどうだろう。

4.都市計画区域全体の昼間人口

1980 (S55)



2015 (H27)

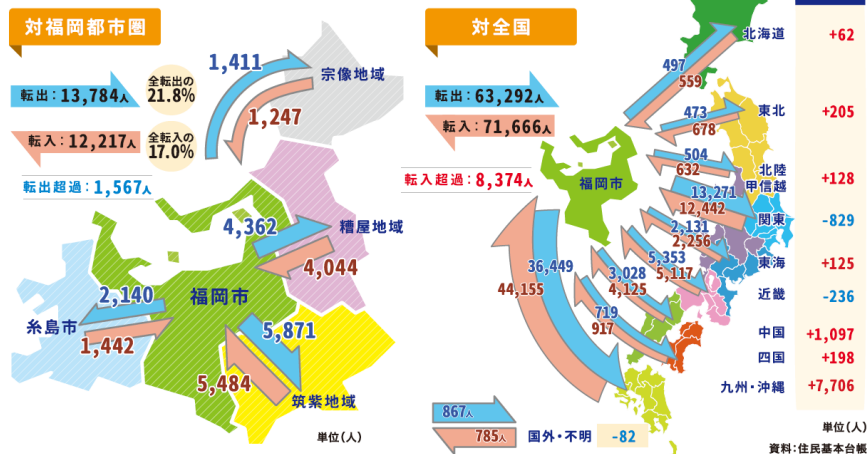


○次に、福岡広域都市計画区域全体の昼間人口及び昼夜間の人口比を確認。

- ・ 市内中心部（博多駅、天神駅近辺）が突出している状況は1980年と変わらないが、駅を含むメッシュはさらに大きく伸びている。
- ・ 大学を含むメッシュが突出しており、周辺のメッシュは昼夜間人口比が少なくなっている。
- ・ 1980年と比較し、全体的に赤系のメッシュが増えており、昼間人口は分散していることが確認できる。
- ・ 特に福岡市の北東側に位置する、古賀市、新宮町、久山町、篠栗町、粕屋町等は昼間人口比が高いエリアが多くなっていることが確認できる。
(国道・県道沿線では業務施設、商業施設等が増えており、発展が著しい。)

5.まとめ

住民基本台帳による人口移動(日本人) - 令和3年 -



グラフで見る福岡市 (R4. 7) より引用

福岡市の人口推移



福岡市 人口ビジョン (R3. 3) より引用

資料: 国勢調査、福岡市将来人口推計(平成24年)

○今回のデータから見たことを振り返り。

- ・福岡市は、九州各地からの転入者は多いが、対福岡都市圏で見ると転出超過となっているデータもあり、昼間人口の分布を見ても、他市町のほうが増加していることが顕著となっている。
- ・福岡市では2035年頃まで人口増加が見込まれるが、老年人口の増加が顕著となっており、64歳以下の人口は横ばいで、これから減少期に入る予測となっている。
- ・これらを踏まえると、福岡市よりも、他市町に魅力を感じている人が多くなっているとも考えられる。
- ・都市計画課の職員として、他市町の魅力に劣らないまちづくりを目指して、業務を行っていかねばいけないと感じた。

○都市構造可視化のデータに触れて感じたこと。

メリット

- ・視覚的にわかりやすい。
- ・グーグルアースを使って表示できるので感覚的に操作しやすい。
- ・マクロな視点での分析に長けている。

デメリット

- ・市役所のパソコンでは、グーグルアースPROに制限がかかるため、業務での使用が困難である。

福岡市は、市民100人のうち、

97人が「福岡市のことが好き」で

96人が「福岡市は住みやすい」と感じ

93人が「福岡市にずっと住み続けたい」と願い

80人が「福岡市民や訪問者のために何か役に立ちたい」と思っている。

福岡市民は、福岡市のことが好き。

住みやすいから、ずっと住み続けたい。

周りの人にも、福岡市を訪れた人にも、役に立ちたい。

福岡市は、住む人も訪れる人も

過ごしやすい、幸せな気持ちになれるまちです。